

第 部 実践事例編



本実践事例においては便宜上、苦手要因に対する学習活動の一例を掲載しています。しかし、実際の指導にあたる際、子どもの困難さの背景には、様々な苦手要因が複合的に関わっていることが考えられます。そのため、実際の指導においては、子どもの苦手要因をしっかりと把握した上で指導の目標を設定し、その目標達成に応じた指導を進めていただけたらと思います。

実践事例 ~ は、苦手要因に対応した学習活動の例を示しています。
実践事例 ~ は、1 単位時間の指導の流れがつかめるように、指導案形式を含めた授業の例を示しています。
それぞれについて、目的に応じながら参考にいただけたらと思います。

子どもの困難と通級指導教室で考えられる指導（例）

観 点	できるようになりたいこと	通級指導で考えられる指導の一例	事例
聞く	指示を理解すること	<p>聞くことがポイントとなるようなことば遊び 絵や具体物などの視覚的な補助を入れた学習 文字による指示を組み合わせた学習 話の中から重要な部分を聞き取る学習 メモを取りながら聞き取る学習 復唱、聴写等の学習</p>	実践事例
話す	筋道を追って話すこと	<p>話すことがポイントとなるようなことば遊び 絵を見て話をする学習 「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうする」等の項目に沿って話をする学習 話す内容を書き、話すポイントを確認する練習 聞き手と話し手を決め、交互に話す学習</p>	
読む	音読	<p>音声等を視覚的に捉える練習 文字を単語全体として覚える学習 カルタ等のゲームを通して読む練習 漢字学習ソフトを活用した読む練習 綴りが同じでも発音が異なる英単語の一覧表を活用し、読む練習</p>	
	読解	<p>興味・関心のある題材を通じた読解の練習 短い文章の読解練習 読んで大事な部分に印を付けたたり、線を引いたりする練習</p>	
書く	正確に書くこと	<p>漢字の成り立ち等の付加的な内容の学習 形の似ている漢字やアルファベットを見比べて、どこが違うかを指摘する練習 漢字を含んだ短い文章を作成し、その文章全体を覚える学習 書く動作になじむため、手先だけでなく、腕全体を使って書く練習 文章や文字をなぞって書く練習 コンピュータや電子辞書を使って、書く練習</p>	実践事例

	作文	<p>他の人が書いた文を読み、必要に応じて書き加えたり、不必要な部分を削除したりする推敲の練習</p> <p>「いつ」「どこで」「誰が」「何をして」「どう思ったか」等の項目ごとに文章を書き、その後話し合いながら内容をふくらませていく学習</p> <p>文型や表現のモデルを提示して、書く練習</p> <p>テーマ作文と自由作文を組み合わせながら、興味・関心のあることについて作文を書く練習</p>	
計算する	計算	<p>絵カード等を活用して位取りの理解を進める学習</p> <p>位取りのマスを書き込んだり、補助線を入れたりする計算の練習</p> <p>繰り上がりや繰り下がりの考え方について、具体物等を活用して理解する学習</p> <p>筆算の際に小さな矢印を書き入れ、手順を確認しながら計算する学習</p> <p>計算のやり方を文章に表すなど、言語化する練習</p> <p>買い物ごっこ等の場面を想定しながら、実際に計算してみる学習</p>	実践事例
計算する・推論する	算数の文章題	<p>文章題を図示する練習</p> <p>何を求められているかなどの文章題のポイントを見つけ、印をつける学習</p> <p>文章題における各場面の要点を確認し、文章全体のストーリーを作る学習</p> <p>自分で文章題を作り、解く練習</p>	
推論する	図形問題	<p>間違い探しや同じ図形探し等、基本的な図形の学習</p> <p>図形の特徴や操作の手順を言語化する練習</p> <p>棒を使っているいろいろな形を作ったり、仲間分けをしたりする学習</p> <p>立方体や球等実際に触れて、その形を実感する学習</p> <p>立体の体積を求める場合、積み木を並べ、量感をつかむ学習</p>	実践事例
	位置や空間を把握すること	<p>床に置いた縄のはしごを渡ったり、狭い場所を通り抜けたりするサーキットトレーニング</p> <p>投げられたボールを取ったり、よけたりする練習</p> <p>型はめパズルをやったり、積み木で形を作ったりする学習</p> <p>学校周辺の地図を作り、オリエンテーリングする学習</p>	

観 点	できるようになりたいこと	通級指導で考えられる指導の一例	事例
不注意	不注意な間違いをしないこと	いくつかの情報の中から必要なものに注目する練習 様々な情報を集め、総合的に判断する練習 自分の不注意による間違いに自ら気付いた時の様子を思い出し反芻する学習 どのようにすれば不注意な間違いを少なくすることができるかについて、場面ごとに考察する学習	実践事例
	注意を集中し続けること	グループ指導において、課題に注意を集中することの学習 様々なタイプの課題を組み合わせ、全体の継続を促す学習 作業時間を少しずつ伸ばしていく学習 タイマーや砂時計を使って、終了の目安を視覚的に確認する練習	
	忘れものをしないこと	自分に合ったメモの仕方の学習 忘れてしまったことによる自分や他者への影響を考える学習 忘れ物をしてしまった場合の対処の仕方の学習	
衝動性 多動性	指示や役割を遂行すること	日常生活に沿った場面を設定し、実際に課題を体験する学習 文字で確認するなどして、指示が具体的に何を指しているのか、何をすべきなのかを考える習慣を身に付ける学習 指示に従えなかったり、仕事を最後までやり遂げなかったりすることによって、他の人に迷惑をかけてしまうことを体感する学習	実践事例
	席について学習すること	自己の感情や欲求をコントロールする指導 グループ指導の場面を活用し、ルールを守ることの必要性や守ることの大切さ等に関する学習 あらかじめ授業の流れを把握させておき、授業中に残りの時間がどれくらいあるのかを知る練習	

	質問が終わらないうちに出し抜けて答えないこと	グループ指導の中で、指名されてから答えるというルールを学び、そのルールの必要性を考える学習 考えをメモしたり、頭に留め置いたりする練習 ロールプレイを取り入れ、自分の行動が相手にどのような印象を与えるのかについて実感する学習	実践事例
	他の人の邪魔をしないこと	他の人がしていることの邪魔をしてはいけないというルールを知る学習 ロールプレイを取り入れ、相手の表情や気持ちを考える学習 ビデオを用いて、自分自身の行動や周囲の状況を振り返る練習（モニタリング）	

観 点	できるようになりたいこと	通級指導で考えられる指導の一例	事例
学習スキル	学習規律を守ること	姿勢 持ち物 提出物 時間に沿った学習	
運動能力	文具や道具の上手な扱い	学習用具（コンパス、定規、はさみ、リコーダー、ボール等、各教科で使用するもの）の使い方及び本人に合わせた使い方の工夫 筆記技能	
生活ルール	適切な生活習慣や人間関係を築くこと	言葉遣い 服装、身だしなみ 他者との距離の取り方	実践事例
学校生活	行事等への参加	前年度の記録用ビデオや写真を見たりして活動の見通しをもつ学習 新しいことに取組む前のシミュレーション 対処方法を考える学習 場面を想定してリハーサルやロールプレイを行う学習	

観 点	できるようになりたいこと	通級指導で考えられる指導の一例	事例
社会性	友だちとのかかわり	勝ち負けのあるゲーム 逆転現象の起きるゲーム（負けや失敗の受け入れ） 振り返りのある複数回の短いゲーム（注意集中）（気持ちの切り替え） 活動の振り返りを通して、相手を認める経験 協力してできるゲームを通して手伝ったり、手伝ってもらったりする経験	実践事例
	他者とのかかわり	相手を意識した姿勢の調整や声の大きさの調節 聴覚的な手がかりによる他者の意図や感情の把握と場に応じた行動の経験 集団に参加するための手順や決まりの理解 他者の感情に気づく学習（人に共感する態度・表現） 価値観の違う多様な考えを受け止める学習 異性とのかかわり方を考える学習 苦手な人とつきあうコツを学習 よく使われる概念の意味を知る学習（暗黙の表現） 会話が続くコツを学習	
	感情のコントロール	活動のビデオを見て、友達と互いのよかったところを伝え合う学習 自分なりのリラックスの仕方を考え、実行する学習	実践事例
心理面	自己理解	「できた」と感じることの積み重ね 自己のよさ、得手不得手の理解 障害受容 自分の行動を客観的に評価できる場の設定	
	自己表現（自分を見つめる）	本人のつらさ（悩み、葛藤）を受けとめ寄り添う（聞く）活動 自分の思いを言葉で表現する活動 自分の特性を知る活動	
コミュニケーション	双方向の会話	会話の暗黙のルールを視覚的に示し、場面の状況や相手の気持ちを考える練習 ルールにのっとって話す練習 「相手に伝わった」「うまく話げた」の成功体験を積むための学習	

実践事例



学年・性別 : 小学校2年生 男児
 指導時間 : 週2時間
 通級の種類 : 自校通級

本人や保護者の思い

漢字の読み書きができるようになりたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素

指示されたことに対して、一生懸命取り組もうとする態度が見られる。
 文字の形を整えて書くことができる。
 漢字とその読みが一致しない(音読みと訓読みの使い分けが苦手)ため、覚えることが難しい。
 画数の多い漢字などを書く際、線の数などを正確に書くことが出来ないことがある。



考えられる
 苦手要因

漢字を覚えようとする意欲の低下

注意を集中させ、漢字を見比べること

漢字を記憶する力
 (ワーキングメモリ)

関連する自立活動の区分・項目

2 - (3)
 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

5 - (5)
 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

4 - (2)
 感覚の認知の特性についての理解と対応に関すること。

学習活動

漢字の成り立ちや部首を調べる。(自分なりの覚え方を工夫できるようにするため)

「漢字イラストカード」(2)を見ながら漢字を読み上げていく。

・「自由自在漢字字典」(3)を使って、漢字を覚える練習をする。
 ・「きくきくドリル」(4)の「あてはまるのは何」の課題を行う。

指導を行う上でのポイント

・「白川静博士の漢字の世界へ」(1)を用いて、漢字の成り立ちに興味をもたせる。

・絵(イラスト)を利用して、漢字をイメージとしてとらえることができるように「漢字イラストカード」をフラッシュカードのように提示する。

・覚えにくい漢字については、語呂合わせを使って、自分で唱えるという多感覚の動作を同時に行なわせる。
 ・単語を視覚的なイメージに置き換えて記憶する方法を知らせて、記憶するコツをつかませる。

指導を行なった結果



指導を続けていくことで、漢字の覚え方のコツをつかめてきたようです。そのため、漢字の学習に対する意欲も少しずつ高まっている印象です。しかし、音読みと訓読みの使い分けはまだ苦手なようで、学習場面において戸惑う様子が見られました。今後は、文章における音訓の使い分けについて対応を図っていく必要があります。

今後に向けて

- ・タブレットの音声アプリ（例：デージーポッド）を用いて、「音読のお手本」を聞く活動を取り入れることも考えられます。
- ・覚えた漢字を在籍学級でも書いてみて、担任の先生からほめてもらう機会を増やすと良いかもしれません。
- ・通常の学級においては、漢字を書く速さや量にこだわるのではなく、正確に書くこと・読むことに指導の力点をおいておくことが大切です。

使用教具

1
『白川静博士の漢字の世界へ』
福井県教育委員会[編・発行]
平凡社(2011/2)



2
『漢字イラストカード 1～6年生』
山田充[著]
かもがわ出版



(写真は2年生上巻)

3
『自由自在漢字辞典』
小学教育研究会[著]
受験研究社(2013/1)



4
『きくきくドリル - ゲンゲン伸びる
能力を育てる BOOK 1～3』
村上裕成[著], 和田秀樹[監修]
文英堂(2006/4)



(写真はBOOK3)

ワンポイント
アドバイス

【ワーキングメモリ(WM)】

ワーキングメモリ (working memory : 作業記憶, 作動記憶) とは、短い時間の中で情報を保持し、同時に処理する能力のことを指します。会話や読み書き、計算などの基礎となる私たちの日常生活や学習を支える重要な能力です。

広島大学HP「児童・生徒のワーキングメモリと学習支援」より引用
http://home.hiroshima-u.ac.jp/hama8/working_memory.html (2018年2月28日)

ただ、「研究により、WMトレーニングでは、国語・算数の成績向上はほとんど見られないことが示唆されている。一人ひとりの子どもの特性を受け入れたうえで、どのような支援が適しており、学習にとって効果的なのかを考える必要がある。その際、WMの支援は有益である。(湯澤, 2017)」という意識をもちながら、通級指導にあたることが大切です。

実践事例



学年・性別 : 小学校3年生 男児
 指導時間 : 週1時間
 通級の種類 : 他校通級

本人や保護者の思い
 一斉指導の中で、指示を聞いて理解し、行動できるようになりたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素

学習等への意欲は高く、いろいろなことに対する「やってみたい」という思いが強い。
 「話す」「計算する」ことについては、学年相応の能力がある。
 自分の「やりたい」という気持ちが大きくなった時には、まわりの様子が目に入らなくなることがある。
 集中力の持続が難しい面が見られる。



考えられる苦手要因

聴覚情報（聞いたこと）の短期保持・処理	集中力の持続	一定量の指示等を聞いた後、行動にうつすこと
---------------------	--------	-----------------------

関連する自立活動の区分・項目

4 - (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	5 - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	2 - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
--------------------------------------	----------------------------------	--

学習活動

ことばだけで指示される問題「みみなぞ」（1）に取り組む。	1つ1つの課題に「目安となる時間」を設定して取り組む。	言われたことを、自分の取りやすい形のメモ（3）にとる練習をする。
------------------------------	-----------------------------	----------------------------------

指導を行う上でのポイント

<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム的な感覚で楽しみながら取り組めるようにする。 ・一度に多くの問題を行うのではなく、一定の期間に渡って少しずつ取り組ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Time Timer（2）など、時間を視覚化できるものを提示し、時間内は作業を継続するように助言する。 ・早く課題が終わったら「見直し」をすることをあらかじめ知らせておき、作業の空白時間ができないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言われたことを、一字一句書くのではなく、「必要な言葉のみを自分で選択して書く」などが、できるようにする。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">高学年以上には、『実行機能能力ステップアップワークシート』かもがわ出版(2017/10)が参考になる。</p>
--	--	--

指導を行なった結果



「みみなぞ」などの教材を使うことで、音声言語を意識して聞き、それに対応していくことが少しずつできるようになりました。また、指示を聞いてすぐに動くのではなく、一旦自分の中で内容を振り返ったり、メモにとったりする作業をした後、行動することも少しずつできるようになってきています。

今後に向けて

- ・通級指導教室のような「静かな場」「1対1対応のとれる場」では、聞く力が高まってきています。しかし、「いろいろな音のする場」「多人数で学ぶ場」である通常の学級では、うまく聞き取って行動することが難しい面が見られます。自分の苦手さを補うために「メモをとるスキル」を高めていく必要があります。
- ・本人の意欲を持続しながら指導を積み上げるためには、しっかりと称賛をしながら、課題に取り組ませていくことが求められます。

使用教具

1 『みみなぞ 理解力・集中力を育てる“聴くパズル”』
高濱正伸・平須賀信洋・田中文久 [著]
草思社(2011/2)



2 『Time Timer (8 cm)』
タイムタイマー



- ・大きさ等はいろいろな種類があります。
- ・アプリ (iOS 版・ANDROID 版) もあります。

3 『聞きとりワークシート 大事なところを聞きとろう編』
NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ [編著]
かもがわ出版(2015/2)



ワンポイントアドバイス

【特別支援教育とICT】

ICT を活用することにより、困りをもっている子どもが学びやすくなる場合があります。

「平成25年度文部科学省委託事業 発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック」に次の言葉があります。

ICT を活用し、発達障害のある子供たちの様々な困難を取り除いたり減らしたりすることにより、子供たちの可能性を広げることが期待できます。実際、「今まで全く分からなかった勉強が分かるようになった」「本読みが苦痛でなくなった」「(ICTが)あるとないとでは大違い。もっと早く欲しかった」といった子供たちの声が報告されています。ただし、目的を明確にせずにICTを使用しても、大きな効果は期待できません。学習面や生活面での困難さを的確にとらえ、目的を明確にして活用することが大切です。

目の前の子ども達にとって、有効なICT活用を図るために、ぜひ同書を一読してみてください。

実践事例



学年・性別 : 小学校3年生 女児
 指導時間 : 週1時間
 通級の種類 : 他校通級

本人や保護者の思い
 算数の計算問題が、正確にできるようになりたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素
 教師の指示に素直に従い、提示された問題を何とか解こうとする意欲がある。文字を書いたり、作業をしたりすることを、とても丁寧に行う。WISC-では処理速度の値が高い。
 一生懸命算数の課題に取り組むが、なかなか正答を得られないので、意欲が少しずつ低下している面が見られる。
 WISC-の結果によると、注意記憶の数値がとても低い。



考えられる苦手要因
 ・情報の短期記憶
 ・言葉による指示の理解
 複数の作業を同時に行なっていくこと
 自己有用感の低下（聞いて作業することの失敗体験による）

関連する自立活動の区分・項目
 4 - (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。
 2 - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
 2 - (1) 情緒の安定に関すること。

学習活動
 計算に関する手順の流れを箇条書きにした「手順書」をつくり、それを参考に計算に取り組む。
 筆算練習の際は、意識して、補助計算を書く。（暗算による計算ミスを防ぐため）
 なぞなぞなど、聞いて考える課題(1)について、本人が少し頑張ればできるレベル・量のものに取り組む。

指導を行う上でのポイント
 ・在籍学級での授業においても、「手順書」の使用を認める。
 ・本人の作業速度を見通して、取り組みやすい量の課題を提示する（設定時間内に作業が終わるようにする）。
 ・繰り上がった数字の位置など、補助計算の書き方については、在籍学級の担任と情報共有して、同じ方法を取り、本人が混乱しないよう配慮する。
 ・見落としとしてはいけないポイントを四角囲みすることなどを伝える。
 ・苦手な能力を使う課題の際には、取り組ませる量や時間に配慮をする。
 ・正解した時には、しっかりと価値づけを行い、苦手な面における自信を少しずつ積み重ねさせていく。

指導を行なった結果



指導の結果、自分に合った学習のコツ(目からのヒントを多く利用する)がわかったようです。指導を重ねていくと、みんなと同じ量の宿題が、たくさんの時間をかけなくても、できるようになってきました。また、本人から「算数が好きになった」という言葉も出るようになりました。

今後に向けて

- ・かけ算九九については、九九を唱えながら覚えるよりも、視覚的な情報入力と指を用いた操作活動(2)をゲーム感覚で行った方が、定着が早いと思われます。
- ・漢字についても、覚えることに苦手さを感じています。パーツごとに命名(3)をしていくなど、構成要素を意識させることにより、覚えやすくなる可能性があります。

使用教具

1
『なぞなぞだいすき 年生』
小野寺びりり紳[著]伊東ぢゅん子[イラスト]
ポプラ社(2003/2)



(写真は1年生向き)

2
『エリートかけ算マスター』
ニチガン



3
『「へん」と「つくり」を合わせるゲーム 漢字はかせ』
馬場雄二[考案]
幻冬舎



ワンポイント
アドバイス

【自己有用感】

「自尊感情」は、自己に対して肯定的な評価を抱いている状態を指す Self-esteem の日本語訳です。アメリカの心理学では以前から注目されてきた概念ですが、日本でも広く用いられるようになっていきます。

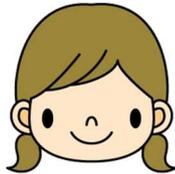
例えば、「自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じていたりする状況が見られたりする」という指摘を受け、その対策として「子供の「自尊感情」を高めることが必要」と主張される方は少なくありません。

しかしながら、日本では、児童生徒の「規範意識(きまり等を進んで守ろうとする意識)」の重要性も強調されています。それらを併せて考えるなら、「自尊感情」よりも「自己有用感」の育成を目指す方が適当と言えるでしょう。

なぜなら、人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」は、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価だからです。

(生徒指導・進路指導研究センターのリーフレット Leaf.18 より引用)

実践事例



学年・性別 : 小学校4年生 女児
指導時間 : 週2時間
通級の種類 : 自校通級

本人や保護者の思い

図形に関する学習や活動に自信をもって取り組めるようになりたい。

本人の状態

: ポジティブ要素
: ネガティブ要素

課題に取り組もうとする意欲がある。
言語理解の力が高い。(WISC-の結果も高かった)
不器用な面があり、漢字の形を整えて書くこと・ハサミやリコーダーを使うことなど、上手く出来ない。(『発達性協調運動障害』の診断がある)
カッとなると、思いがけない行動をとってしまう面がある。
忘れ物が多く、整理整頓が苦手。



考えられる
苦手要因

視覚認知・視覚情報の処理

目と手の協応(微細運動)やボディコントロールの不十分さ

自分の作業への自信の低さ

関連する自立活動の区分・項目

4 - (2)
感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。

5 - (5)
作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。

3 - (3)
自己の理解と行動の調整に関する事。

学習活動

ビジョントレーニングとして「目の準備体操」(1)を行う。

視空間認知トレーニングとして「点つなぎ」(2)を行う。

パソコンソフト「ビジョントレーニング」(3)を行う。

指導を行う
上での
ポイント

・集中して取り組むことが出来るように、テンポよく課題を提示する。

・毎回1枚に取り組むなど作業量を限定し、継続して行えるようにする。

・毎回の記録を保存し次回の活動時に提示することで、意欲付けを行う。

指導を行なった結果



- ・ビジョントレーニングや目と手の協応に関する練習を継続したことにより、見る力や巧緻性などが高まってきました。
- ・パソコンソフトを用いる際、前回までの記録を見ることが、活動への意欲付けになったようです。

今後に向けて

- ・パソコンだけでなく、タブレットのアプリを用いることが出来れば、準備等を含めた簡素化につながります。
- ・点つなぎのプリントは、児童の段階に応じて、レベルを変えていくことが必要です。
- ・図形に関する課題については、「始点と終点を提示する」など、通常の学級の中でも少しヒントを出す配慮があると、本人が学びやすくなると思われます。

使用教具

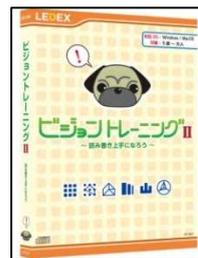
1 (目の準備体操 作成のための参考図書)
『学ぶことが大好きになるビジョントレーニング
読み書き・運動が苦手なのは理由があった』
北出勝也[著]
図書文化社(2009/10)



2 (参考図書)
『形と空間を捉えるチカラを鍛える。
トレーニング BOOK「点つなぎ 1～4」』
大阪医科大学 LD センター/アットスクール 教育研究部[共同開発]
奥村智人[開発総指揮]、竹田契一・川端秀仁[監修]
アットスクール



3
『ビジョントレーニング』
レデックス(2012/11)



ワンポイント
アドバイス

【ビジョントレーニングについて】

「見ること」から考えたとき、視覚機能がまだ十分に発達していないお子さんには、眼をスムーズに動かして文章の行を追っていくことができなかつたり、文字の形を覚えることがむずかしかつたりすることがよくあります。まず、視覚機能を伸ばすためのトレーニングを行なつたり、読みやすく・書きやすくなるように環境を工夫してあげたりすることのほうが、漢字や音読の練習をただやみくもにがんばるよりも、ずっと大切な場合があるのです。(『学ぶことが大好きになるビジョントレーニング 読み書き・運動が苦手なのは理由があった』北出勝也著(図書文化社)より引用)

実践事例



学年・性別 : 小学校4年生 女児
 指導時間 : 週2時間
 通級の種類 : 他校通級

本人や保護者の思い
 離席することなく、落ち着いて授業に取り組みたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素
 勉強がわかるようになりたいという気持ちがある。
 学級のいろいろな子どもと、楽しそうに関わることができる。休み時間など、外で元気よく遊ぶ姿が見られる。
 身体の動き(粗大運動)のコントロールが難しい。縄跳びや鉄棒運動など、うまく行うことができない。
 言語理解が苦手で、不安感が大きい。



考えられる苦手要因
 姿勢を保持することがうまく出来ず、一定時間、じっとしていること
 ・言語理解の苦手さ
 ・ほめられた経験の少なさ
 自分自身の身体のコントロール(ボディイメージができていない)

関連する自立活動の区分・項目
 2 - (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
 6 - (2) 言語の受容と表出に関すること。
 5 - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

学習活動
 見通しをもたせ注意を向けた上で、一定時間着席して作業に取り組む課題(例: 視写など)を行う。
 1対1で言葉による指示を行い、それに従って行動する。(同時に、よい行動をほめ、離席については、大きくとりたてては、かかわらない。)
 「立つ・座る」「話者を見る」「動きを止める」など、絵カード(自作)で指示を出し、その動きを練習する。

指導を行う上でのポイント
 ・「うつしまるくん」(1)を用いて視写を行わせる。
 ・文字の視写に抵抗感が強い場合は、「直写ノート」(2)を用いて、イラストなどのなぞり書きから始めることも考えられる。
 ・離席に対して直接対応せず、「こうした方がいい」ということを具体的な行動で示す。
 ・「10歳からのことばトレーニング」(3)を参考にすることもできる。
 ・最初の段階は絵カードを用いるが、「絵カードによる支援声かけによる支援目線による支援」といった具合に、支援のフェードアウトを行っていく。
 ・鏡などで、自分の動きを確認して、ボディイメージをつくらせていく。

指導を行なった結果



始めのうちは、活動をして2～3分で離席していました。指導を重ねると、課題に取り組む間は、着席していただけるようになりました。また、ほめられる経験により、自分に自信をもつことができるようになったようです。最終的には、必要な時間、自分の行動をコントロールして、着席していることができました。

今後に向けて

- ・自分の苦手な課題の際は、着席している時間が短くなってしまいます。苦手な課題の際も、課題を細分化して提示するなどして、少しずつ、着席していただける時間を長くしていくことが求められます。
- ・本児に「よい行動」をインプットすることが必要です。校内で支援体制を確立し、いろいろな先生から「これがよい行動」ということを、本児に投げかけることも効果的だと考えられます。

使用教具

1 『うつしまるくん』
光村教育図書

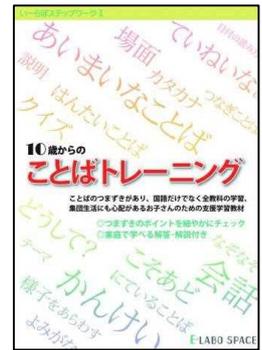


(写真は3年生用)

2 『T O S S直写ノート』
東京教育技術研究所



3 『10歳からのことばトレーニング』
山崎衛・大西知佐子[著]
マインEラボ・スペース



【視写について】

視写の効果

1. 集中力をつける。
2. 字が上手になる。
3. 文章表現の技法を覚える。
4. 表記のルールを覚える。
5. 暗誦や記憶に役立つ。

文部科学省のホームページより引用

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/009.htm(2018年2月28日)

上記のように、視写は「集中力をつける」効果が高い学習方法であると言えます。そのため、子どもを落ち着かせたい時には、使用したいものです。しかし、中には書くこと自体や教師からの指示に従うことに抵抗感を持っている子どももいます。そのため、学習活動等で示したように、子どもの意欲や発達段階に応じた取組が求められます。

ワンポイント
アドバイス

実践事例



学年・性別 : 小学校2年生 男児
 指導時間 : 週1時間
 通級の種類 : 自校通級

本人や保護者の思い
 質問が終わらないうちに、出し抜けて答えることを少なくしたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素
 学習内容は、よく理解出来ている。自分の興味のあることについては、大人も驚く内容まで知っているし、話してくれる。
 素直な性格で、指示されたことに対しては、一生懸命行おうとする。
 友達が話している途中でも、口をはさみ、しゃべり続ける面がある。
 目に見えるものに反応しやすく、すぐに触ったり、気になるものがある方へ行ったりしようとすることがある。



考えられる
 苦手要因

興味の転導性の高さ
 (視覚からの刺激への反応のしやすさ)

学習時間におけるルールの理解・定着

聴覚からの情報は、一部を聞いただけで全体を推察してしまうこと

関連する自立活動の区分・項目

3 - (3)
 自己の理解と行動の調整に関すること。

3 - (4)
 集団への参加の基礎に関すること。

6 - (2)
 言語の受容と表出に関すること。

学習活動

聴覚情報をもとに課題解決していく課題
 (例: 実践事例の「きくきくドリル」など)に取り組む。

「発表の仕方」「質問の仕方」などのルールを学級で決めておく。
 通級指導教室でも、同じルールを用いて、具体的に練習する。

「3(スリー)ヒントれんそうカード」(1)を使って、カルタ形式のゲームを行う。

指導を行う上でのポイント

- ・最初の段階は、本人があまり苦手な思いをもたずに取り組める内容を課題にする。
- ・あらかじめ指示しておいた分量に、黙って取り組むことができれば、しっかりと褒め、価値づける。

- ・視覚情報がヒントになるように、ルールを書いた掲示物を作成し、掲示する。
- ・ルールを決める際には、本人の意見も、取り入れるようにする。

- ・カードに書かれている問題文は、パターンが決まっているため、担当が文章の追加等を行い、「変化のある繰り返し」を意識して実践する。

指導を行なった結果



通級指導においては、落ち着いた行動が見られるようになりました。「課題に取り組めた」という体験の積み重ねが、本人の行動のコントロールに良い影響を与えたようです。
学級の中で、挙手を何度もする様子は変わりませんが、出し抜けに答えることは少なくなってきました。

今後に向けて

- ・「3ヒントれんそうカード」を使用する際、発展的な使用方法として、ヒントになる文を、子ども自身に考えさせてみるのが考えられます。そうすることで、よりヒントを聞く意識づけにつながるかもしれません。【参考教材『スリーヒントなぞなぞ&なぞなぞづくり』】(2)
- ・集団における行動コントロールが課題であるため、通級でできたことが通常の学級でもできるようになること(=般化)に難しさがあります。いろいろな視点からの手立てを一定の期間、行っていくことが必要です。

使用教具

1
『3(スリー)ヒントれんそうカード』
シルバーバック



2
『スリーヒントなぞなぞ&なぞなぞづくり』
栗本奈緒子、水田めくみ、竹下盛
[共同開発]
株式会社スプリングス



ワンポイント
アドバイス

【般化】

刺激般化と反応般化に分けられる。刺激般化は、学習された反応が、学習が行われた状況あるいは刺激条件とは異なる状況・刺激条件に転移することを言い、反応般化は、ある特定の反応の強化が、その反応と似た異なる反応が生起する確率を高めることを言う。

般化は、人間が絶えず変化する環境に柔軟に弾力的に、かつ安定して一貫性をもって適応していく上で、弁別と並んで極めて重要な意義をもっている。
(LD・ADHD等関連用語集より引用)

実践事例



学年・性別 : 小学校1年生 男児
 指導時間 : 週2時間
 通級の種類 : 自校通級

本人や保護者の思い
 集団での活動に参加できるようになりたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素

知的好奇心が旺盛で、興味のあることには積極的に取り組む。算数（特に計算問題）が得意で本人も自信をもっている。
 友達と仲良く過ごしたいという気持ちは強い。
 初めての活動には抵抗があり、場を離れてしまうことが多い。
 あいまいな表現を理解したり、自分の気持ちを言葉で表現したりすることが苦手。国語の学習にも抵抗がある。



考えられる苦手要因

自分の思いを言葉で他者に伝えること	言葉による指示で活動に対する見通しをもつこと	年齢相応のソーシャルスキルの未定着
-------------------	------------------------	-------------------

関連する自立活動の区分・項目

6 - (2) 言語の受容と表出に関すること。	2 - (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	3 - (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
-------------------------	-----------------------------	----------------------------

学習活動

活動に参加している際、苦しくなった時には「ヘルプカード」を示したらよいことを知る。	(通級活動の始めに) 今日活動全体の内容を示し、確認を行う。	(グループ活動で) ソーシャルスキルトレーニング(SST)として、パーキングゲーム(1)を行う。
---	--------------------------------	--

指導を行う上でのポイント

<ul style="list-style-type: none"> ヘルプカードを本人と一緒に作成し、使い方を練習する。 通級で行ったことを担任に知らせ、通常の学級においても、可能な限り同じ対応をとる協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードやカードなど視覚情報を使って情報を提示する。(視覚情報が手がかりになるようにする。) 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で気持ちを伝えるために、「どうぞ」「ありがとう」などの言葉を用いて、他者と関わらせる。 勝敗に関わる感情コントロールを定着させるため、事前に「ゲームは勝ったり負けたりするものだから、我慢することも必要」と予告しておく。
--	---	--

指導を行なった結果



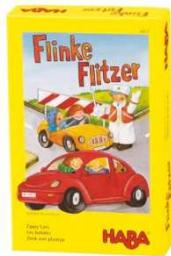
ゲームを通して勝ち負けを受け入れる指導を行ったことで、友だちとの関わりがスムーズになってきました。カードを用いた意思表示にも慣れてきました。しかし、理由を説明することは、まだまだ苦手です。引き続き、通級指導教室での指導を進めていく必要があります。

今後に向けて

- ・本人の発達段階に合わせて、「言語による意思表示」を少しずつ練習していく必要があります。
- ・教室における集団活動については、事前に通級指導教室で練習を行う通常の学級で試してみる その後通級指導教室で振り返り等を行う、の流れが求められます。そのため、担任と通級指導担当が共通理解・連携を図り、情報を共有して指導にあたっていくことが大切です。

使用教具

1
『パーキングゲーム』
HABA/ハバ社（ドイツ）



【ゲーム内容】

順番にサイコロをふり、出た色の車のコマを、自分の駐車場カードの同じ色の駐車場にとめていく。
すでに駐車場に止まっているコマの色が出たら、そのコマは左隣りの人にプレゼントする。
最初に全部の駐車場をうめた人が勝ち。

ワンポイント
アドバイス

【ソーシャルスキル】

その人が属している集団（幼稚園・保育園・学校）の中で求められている適切な言動がとれる技能。

【ソーシャルスキルトレーニング】

人間関係にあまり興味を持たないための経験不足から、または経験していてもその経験を偏った形で取り込んでしまったり、似たような体験を同様のものとして応用できなかつたり、体験に伴う感情を上手に表現できないために、対人関係や集団行動がスムーズにおこなえない人たちがいます。そういった人たちに適切な言動がとれるように行う指導。

（『教室・家庭でいまずすぐ使えるSST』安住ゆう子・三島節子著（かもがわ出版）より引用）

実践事例



学年・性別 : 小学校4年生 女児
 指導時間 : 週1時間
 通級の種類 : 他校通級

本人や保護者の思い
 勝ち負けに、こだわらないで、友達となかよくゲームをしたい。

本人の状態
 : ポジティブ要素
 : ネガティブ要素
 人懐っこい性格で、大人にもよく話しかけてくる(しかし、相手との距離感が近い面が見られる)。身体を動かすことが好き。自分中心の考えで動き、相手の気持ちについては、考えにくい面がある。そのため、友達に厳しい言葉を投げかけることがある。見通しがもてないと、不安になる。



考えられる
 苦手要因
 見通しの立てづらさ(「こうしたらになる」ということを考えにくい)

他者の気持ちや思いを、推し量ること

負けた時の気持ちの処理

関連する自立活動の区分・項目
 3 - (4) 集団への参加の基礎に関すること。

6 - (2) 言語の受容と表出に関すること。

2 - (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。

学習活動
 担当者と本人が意見を交わし、本人が納得できる内容からなる「ソーシャル・ストーリー作り」を行う。

認知作業トレーニング「コグトレ」(2)を行う。

勝敗のつかない偶然性のある出来事への体験をするために、「こころかるた」(3)を行う。

指導を行う上でのポイント
 ・一度作成したソーシャル・ストーリーも、状況や本人の成長に伴い、柔軟に修正等を加えていく必要がある。
 ・「10歳からのソーシャルスキルトレーニング」(1)を参考に対話することも考えられる。

・自分以外の人と活動を行う中で、声をかけたり、挨拶(お礼・お詫び)をしたりとすると良いことに気付かせる。

・ゲームを通して「見通しをもちにくいこともある」「勝敗がつかないこともある」などのことに気付かせる。
 ・負ける経験をして最後には勝って終わる体験を仕組む。

指導を行なった結果



指導を進めると、通級指導の場では、勝ち負けにこだわる様子が少なくなりました。しかし、多人数で遊ぶ時には、興奮してしまい、勝ち負けにこだわる面が見られました。そのため、ソーシャル・ストーリーのバージョンアップを繰り返しました。そうすると、指導開始前より、勝ち負けへのこだわりが見られにくくなりました。

今後に向けて

- ・保護者や担任から、本人に関する情報を入手する必要があります（例：本人の好きなこと・苦手なことなど）。その情報を活用していくことで、より本人に応じたソーシャル・ストーリー作りを進めていけると考えられます。
- ・本人の苦手な面を高めようとするだけでなく、得意な面もソーシャル・ストーリーの材料にすると、本人を価値づけることができます。

使用教具

1 『10歳からのソーシャルスキルトレーニング』
山崎衛・大西知佐子[著]
マインEラボ・スペース



2 『1日5分! 教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122』
宮口幸治[著]
東洋館出版社(2016/10)



3 『ころころた子ども向け』
クリエイションアカデミー



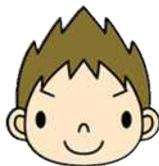
ワンポイントアドバイス

【コグトレについて】

コグトレは簡単かつ手軽に認知能力を高められるトレーニングツールです。元来コグトレは、みたりきいたりする課題を行うことが苦手な子どもを主な対象につくられました。そのような子どもたちは、学習へのやる気が乏しく、動機づけが難しい場合もあります。ですから、コグトレを行うにあたっては、できるかぎり楽しめるよう子どものできる範囲で行い、解答に完璧さを求めるよりも課題に取り組んだことをほめてあげましょう。

(『コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング』宮口幸治著(三輪書店)より引用)

実践事例



学校種・学年 : 中学校 2 年生 男子

指導時間 : 週 2 時間

通級の種類 : 自校通級

1 生徒の実態・状況

- ・ カットすると激しく動揺し、感情のコントロールが難しく、情緒が不安定になる。(物にあたる、口汚い言葉を使う、いじける)
- ・ 自分のやり方があり、そこから外れるとカットとなる。
- ・ 学力的には問題はないが、取り組み状況にむらがあるので集団での学習が難しい。
- ・ 他の生徒と同じようにやりたいという気持ちはとても強い。
- ・ 自分が人と違う行動をしていることには気づけないことが多い。
- ・ 気になる異性に不適切な行動(やみくも接近、つきまとい)がみられる。

2 指導の実際

(1) 生徒の実態を踏まえ、通級指導教室の中で行った指導内容

指導内容	怒りのコントロール	関連する自立活動の区分・項目	3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
------	-----------	----------------	------------------------------------

(2) 授業の意図

題材 「気持ちのコントロール～怒りをコントロールする～」

怒りの感情や衝動をコントロールするスキルを学ぶ。相手を傷つけたり人間関係を壊したりしないよう、怒りの感情への適切な対処法の習得をめざす。

まず「怒りはどんなときに生じるか」「体にどんな変化が生じるか」を考え、生徒に怒りが生じたときの体験を振り返り返らせ、怒りを抑え込むのではなく、適切に対処していくことが大切だと気づかせる。次に、四つの怒りのコントロール法を教える。必要なスキルを確認した後、自分に適したスキルを見つけさせ、日常生活の中で活用できるようにする。

(3) 本時の主眼

主眼 怒りの適切な対処の仕方を知る。

(4) 授業の過程

学習活動	教師の手立て(留意点:)
<p>どんなときに「怒り」を感じるかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「怒り」を感じる状況とそのとき、体にはどんな変化が起こるかを思い出させる。 頭に血がのぼる、体が熱くなる、体が硬くなる、じっとしてられない、人や物にあたりたくなる 等 ・「怒り」を感じて、友達や家族とトラブルになった経験を思い出させる。 言い合いになった、けんかになった、しばらく口をきかなかった。 「怒り」を抑え込むのではなく、適切に対処することが大切なことをおさえる。
<p>怒りのコントロールの仕方について興味をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「怒り」をうまくコントロールしていくには、どうしたらよいのかを考えさせる。

<p>自分なりのコントロールの仕方を考える。</p> <p>学習したスキルを確認し、日常生活でも実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四つのコントロールの仕方を知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> A：深呼吸 「大きく息を吸って、ゆっくりはき出す（数回繰り返す）」 B：カウントダウン 「5，4，3，2，1．はい落ち着いた。」 C：自己会話 「落ち着いて、落ち着いて」「大丈夫、大丈夫」 D：心地よいイメージ（目を閉じて） 「緑の草原で風に吹かれている自分」「海にぷかぷか浮いている自分」 モデルを示した後、実際に練習させる。 自分に適したスキルを見つけるように指示する。 自分に合った言葉やイメージでよいことを確認する。 ・ ワークシートに考えを書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 場面1：友達から嫌なことをされたとき 場面2：自分が悪くないのに文句を言われたとき 場面3：自分の大切なものを壊されたとき 場面4：約束を破られたとき それぞれのコントロールの仕方のよさを確認し、対処法の多様性に気づかせる。 ・ 学習の感想をたずね、振り返りシートに学習の感想を記入させる。 ・ チェックカードを配布し、実践できたことを一週間後に見せてもらうように話す。
---	--

指導を行なった結果



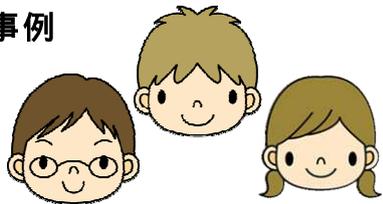
「怒りをコントロールする」という問題解決スキルが十分に育っていないために、友だちとのトラブルが多くみられていましたが、一呼吸置いて行動するようになり、少しずつそのトラブルも減ってきました。

「怒りの感情や衝動のまま行動すれば、相手を傷つけ人間関係を壊してしまう」ことを体験的に学び、「怒りを感じないようにすることはできないけれど、コントロールすることはできる」という本人の意識は育ってきました。

今後に向けて

- ・ 対人関係に必要なソーシャルスキルは、相手（友達なのか、教師なのか）状況（緊急性があるのか、熟慮できるのか）場所（学校なのか、学校外なのか）...によって違ってきます。
「相手や状況にかかわらず、使われる可能性が高いスキル」を中心に適切なかわし方を本人と一緒に確認していきましょう。
- ・ 通級指導教室で体験し身につけたものが、通常の学級の中や学校内外で使えることが最終目標です。

実践事例



学年・性別 : 小学校4年生 男児、5年生 男児・女児

指導時間 : 週2時間

通級の種類 : 自校通級

1 児童の実態・学習集団の状況

- ・3名の児童は、それぞれ、集団参加や対人関係、コミュニケーションにおいて困難さがある。週2単位時間の自立活動の指導を行い、45分授業の前半は児童の認知面や心理面による困難さへ配慮した個別の指導を行い、後半はゲーム的な活動を中心とした小集団活動を通してソーシャルスキルトレーニングを行っている。

2 指導の実際

(1) 児童の実態を踏まえ、通級指導教室の中で行った指導内容

指導内容	小集団での活動	関連する自立活動の区分・項目	3 人間関係の形成 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
------	---------	----------------	------------------------------------

(2) 授業の意図 小集団での活動

題材 「聞こう 話そう 伝え合おう」 小集団での活動～相手の意見を受け入れる～

本題材の小集団活動では、チーム対抗の空き缶積み競争を取り上げている。教員チームとの対抗戦であることから、仲間意識が向上し、協力して活動すると思われる。また、タイムレースでもあることから、勝敗が明確になり感情が高ぶる場面も見られるであろう。更に作戦タイムを設けることで、言葉による双方向のやり取りが増えることをねらっている。

(3) 本時の主眼・評価の観点

A 児	B 児	C 児
・友達の合意を得て、ゲームなどのルール決めや変更を行うことができる。	・友達の意見を聞き入れて、自分の考えを伝えることができる。 ・学習や活動の様子を、冷静に振り返ることができる。	・友達の意見を聞き、自分の考えを相手に伝えることができる。 ・勝ち負けのある活動に落ち着いて参加することができる。

(4) 授業の過程 (次頁参照)

指導を行なった結果



小集団でのゲーム的活動を通して、基本的なマナーや、人のかかわり方、勝ち負けの対処の仕方等のソーシャルスキルが少しずつ育ってきています。

「方法を学び、実践し、振り返る」といった一連の活動の中で、できたことを即時に褒められることで、適切な言動が少しずつ強化されてきています。

通級指導教室で学んだことを連絡帳等を通じ、学級の担任や保護者にも伝えていきます。

- ・学習の見通しをもたせるため、小集団活動では授業の流れをある程度一定にすることも考えられます。

例) 授業前半は認知面の学習を中心に個別指導を行い、後半にコミュニケーションや自己コントロールの課題を中心とした小集団活動を設定

- ・学習の始めには、自己目標を設定する活動を取り入れ、学習の終わりには、自分の行動を振り返る活動を積み重ねていくことが大切です。

(4) 授業の過程

過程	学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○)・個別の支援(A・B・C)
見通す 気づく	1 本時の活動内容を知り、自分のめあてを決める。 ・活動の見通し 2 個別の認知課題に応じた学習を行う。 A:「漢字九九」 B:「リズム漢字」 C:「聞き取りワーク」	○本日のめあてを前向きに考えられるよう、前回の活動記録の「できたこと」を確認する。 ○本時の活動予定表を提示し、具体的な説明を加えることで、活動の見通しをもたせる。 A:漢字プリントを始める前に、心がけることを尋ね、ゆっくり丁寧に書いているときは、称賛する。 B:手本を指さしながら読む。 C:はじめに、質問の内容を確認しておき、何を注意して聞くかを把握させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">相手の意見を受け入れて、自分の意見を伝えよう。</div>		
深める	3 小集団になり、テーマに沿って 会話をする。 ・伝わりやすい話し方(主語と意見、理由) ・つなぎ言葉を使ったやりとり ・聴く態度	○話型カードを示し、会話の例文を使って練習させる。 ○表現の工夫や内容のよさなどを具体的に褒めて、自信をもたせる。 A:カードで「聞く人」「話す人」を示すことで役割を明確にする。 B:5年生の話し方を参考にすることができるように、2番目以降に指名する。 C:考えをまとめる時間を持ち、自信をもって話すように励ます。
高める	4 缶積みゲームをする。 ・ルールの説明 ・1回目の対戦 ・作戦タイム 「先生チームに勝つためにはどうすればいいかな」 ・会話練習のときの言い方で作戦を話し合おう ・2回目の対戦	カードを指さし、役割を確認する。 ○3の活動で使用した話型カードを見える位置に掲示しておき、話すときの参考にさせる。 A:カードを指さし、役割を確認する。習得した接続詞を使って話しているときには、即時短い言葉で褒める。 B:言葉だけでなく、モデルを示しながら、ルールを説明する。 C:考えをまとめる時間を持ち、自信をもって話すように励ます。
つなぐ	5 振り返りをする。 ・自己理解 ・理由をつけた説明	○活動予定表を再確認し、できたことを伝える。 A:習得した接続詞を使って話しているときには、即時短い言葉で褒める。 B:勝ち負けだけでなく、話し合いのしかたにも目を向けるよう助言する。 C:普段と違う場で、学習に取り組んだことをしっかり褒める。

参考資料 「自分の頑張りどころをきめよう」

子ども自身が「自分はこうなりたい」「ここを頑張りたい」という意識をもって主体的に活動することを支えていくことが大切です。

自分の目標をうまく立てることが難しい子どもに、通級担当経験者はこんな工夫を行っています。

目標設定ワークシート

 **言われたことをきちんとがんばる〇〇くん。**
話を聞く姿勢もいいね。 

〇〇先生より

気持ちの切替えがはやくなるといいね。
スピードアップで活動できるといいね。

ぼくの がんばりどころ

通級より

気持ちの切替えがはやくなるといいね。
思いをわかりやすく伝えられるといいね。

〇〇くんの家族より

人に迷惑をかけないようにしたいね。
〇〇くんのいいところを伸ばして行ってほしいな。



担任・保護者・通級担当の思いや願いが吹き出しで示されている書き込みシートを作りました。

これは、個別の教育支援計画や在籍学級の指導計画、学年初めの懇談会の内容から出てきたものを吹き出しの言葉にし、身近な大人が、みんなであなたのことを気に掛け見守っていることを伝え、子ども自身が課題に気付いてほしいという願いもあります。

目標設定の活動は、自分の課題やマイナス部分に着目する必要があるため、慎重に行う必要があります。自分を否定的に捉えてしまい、取組が消極的になってしまうことが予測される児童には、自己を肯定的に捉えることができるよう、通級担当から見たその子の長所を明記するようにしました。そうすることで、子どもたちは自己を肯定的に捉えて自分を見つめ直し、目標設定に抵抗なく取り組むことができるようになったと思います。

目標を設定するときには、個別に指導を行い、通級担当が児童の思いを聞き出しながら行っていきました。